

中区では、外国人住民と日本人住民が共により良く暮らすために、行政情報や暮らしのルール、社会の制度など生活に役立つ情報を多言語広報紙として中国語と英語でお伝えしています。

中区役所多言語広報紙
英語版 中国語版



日本での学校進学

母国を離れて、異国の学校に通うのはとても大変なこと。子どもたちの将来の選択肢を広げるためにも、日本の進学事情は親子で知っておきたいところです。今回は高校進学を目指す人のための情報のほか、横浜市立小学校・中学校に入学・編入するまえにまず押さえておきたい基礎知識について紹介します。

高校受験に臨む

義務教育ではなく、検査に合格することが必要な高校進学。外国につながる子の現状を、横浜市立港中学校の国際教室の先生に伺いました。



金子先生

国際教室の生徒にとっての高校入試

港中学校の生徒は、4人に1人が外国につながる子ども。例えば中国にも高校受験はあるので、中国から来た生徒は受験勉強をしないといけなことは当然のように理解できます。けれど、中国の検査には明確な合格点があるのに対し、日本は定員制。なので、生徒から「何点取れば受かるの?」と聞かれることも。検査の時期も異なり、そういった制度のことを理解するのに時間がかかるのです。

言葉の壁を越えての試験

国際教室の生徒たちは、学校以外にも、決まった曜日の放課後に「なか国際交流ラウンジ」に行き勉強を見てもらっています。数学と英語はなんとかこなしても、国語や社会は日本語が分からないと難しい。なかにはとてつもない努力をする子もいるし、例えば歴史上の人物の名前を、読み方が分からなくても漢字で覚えて対処する子もいます。一方で、頑張っても思うようにいかず、いったん進学してから他校の検査を受け直す子もいます。自分で納得がいくまで勉強してほしいと思いますね。



先生からアドバイス

学校で進路指導をするときは本人の気持ちを尊重するように心がけていますが、進路を決めるにあたっては、高校卒業後のことまでしっかり考えてほしいですね。本当に大学に行きたいのか、専門学校の方がいいのか。それによって高校の学科の選択が変わってきますから。保護者も、日本語が分からないと学校見学や説明会といった場になかなか出向けない人が多いのですが、どんどん行動していただきたいと思っています。

① 高校の種類について

学習のスタイルによって、全日制、通信制、定時制の3種類の課程があります。日中に通学する全日制が一般的ですが、おもに家庭で学習を行う通信制を取り入れている学校も。夜間などの定時制は、日中に通うことが難しい人に向き、仕事と勉強を両立したい人や大人も通っています。

また、勉強の種類によって、学科が分かれます。共通教科を学ぶ一般的な「普通科」、農業や工業などの専門的知識や技術を勉強する「専門学科」、普通科と専門学科それぞれの科目を多様に選択して学べる「総合学科」があります。

なお、公立と私立は併願することが可能です。

② 「公立高校入学のためのガイドブック」

受験までの日程、志願資格などの基本的な情報を掲載している、最初の必読書。計10言語で作成。



③ 教育支援団体について

外国につながる子どもたちの教育を支援している「ME-net」。毎回大盛況の高校進学ガイダンスは今年度は中止ですが、高校受験の多言語情報をホームページで提供中。<http://me-net.or.jp/guidance/>【認定 NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ (ME-net) 事務局】

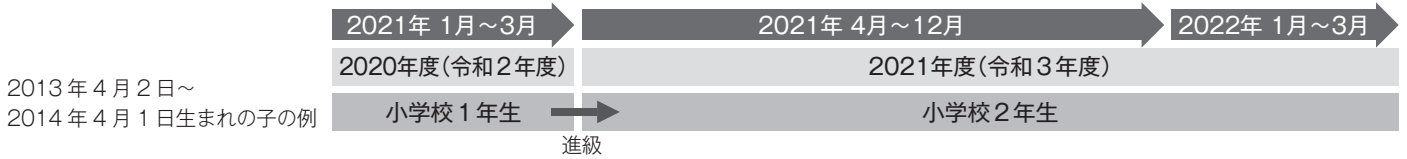


TEL: 045-896-0015 (月・水・金 10時～17時)

横浜市立小学校・中学校に通うまえに

日本の学校制度をまだ把握できていない、何から調べたらいいのかわからない、という人もいます。ここで紹介していることを知っているか、ひとつひとつ確認してみましょう。

学年 日本の学校は4月始まり。うちの子は何年生になるの？



4月2日から翌年4月1日までに生まれた子は同じ学年になり、母国とは違う学年になることもあります。日本語の授業についていけない等の理由で下の学年へ入りたいときには、校長先生に相談しましょう。また、義務教育課程である小学校・中学校の9年間は、飛び級はありません。原則、4月になると進級します。

学区 学区で悩んだら...

どの学校に通うかは「学区」によって決められています。住んでいる場所で学区は異なりますが、子どもに個々の事情があれば学区外の学校に通えることも。学区外の学校に通いたい、という場合には両方の学校に相談してみましょう。入学後に変更するのは難しいので、入学前に検討することが大事です。

情報 「ようこそ横浜の学校へ」

この紙面では紹介しきれない、入学前から在学中に渡る情報が網羅されている冊子。スペイン語、ベトナム語、タガログ語等の計8言語で作成。ホームページからダウンロードできます。

- ・編入学のための手続き
- ・母語を用いたボランティア支援
- ・小学生の放課後 など



言葉 日本語支援拠点施設「ひまわり」

横浜市立小学校・中学校に在籍する帰国・来日直後で日本語指導が必要な子どもが、週3日、4週間、初期日本語だけでなく、学校生活や授業で使う日本語などを集中的に勉強します。また、保護者も対象の「学校ガイダンス」では、入学手続きに関する説明や関係書類の記入支援などを行っています。

「ひまわり」に通いたい人は…通っている、または通う予定の小学校・中学校の先生に相談してください。



経済的な支援について

小学校・中学校

義務教育課程である小学校・中学校は、公立学校の場合、入学金・授業料・教科書は無料です。しかし、給食費や修学旅行費は保護者の負担となり、その金額は学校により多少異なります。子どもの教育費を払うのが難しい場合は、学校を通じて申請する就学援助の制度があるので、学校に相談しましょう。

高校

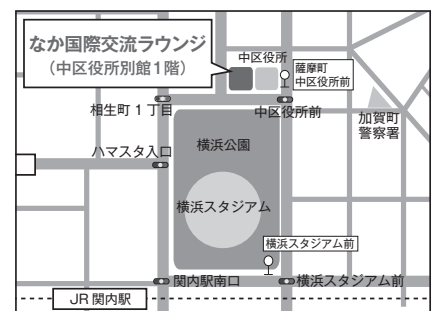
公立・私立を問わず、入学金・授業料のほか、入学検査の受検料もかかります。受検料の減免については、早めに志願先の高校の事務室に相談しましょう。教育費については、「横浜市高等学校奨学生」や、「神奈川県高校生等奨学給付金」「神奈川県高等学校奨学金」という奨学金制度、「高等学校等就学支援金」という授業料返還不要の支援制度があります。それぞれ支給条件があるので、詳しくは学校に聞いてみましょう。県内在住者が県内の私立高校等に在学する場合には、入学金・授業料の返還不要の補助があります。詳しくは各私立高校等に問い合わせてください。

なか国際交流ラウンジ・日本語教室

日常生活に役立つ日本語を楽しく学ぶ教室です。

- 日時：11/17～3/18の毎週火・木曜（30回・冬休みあり）10時30分～12時
- 費用：6,000円
- 対象：日本語初級者。原則として中区在住・在勤の16歳以上の人
- 学習形態：4人ぐらいのグループレッスン（コロナ感染状況により、オンライン教室に切り替わることもあります。オンライン教室はZOOMアプリを使って学習します。）
- 申し込み：グループ分けのためのインタビューの予約を、来所か電話でしてください
- ラウンジ開館時間：10時～17時、火・土曜は20時まで。第3日曜休館

<なか国際交流ラウンジ TEL：045-210-0667 >



問合せ先の応答は「英語対応」「中国語対応」と書いていないものは、日本語での対応になります。

国勢調査の回答はお済みですか？ 提出期限は10月7日(水)

国勢調査は日本に住む全ての人が調査の対象です。日本語、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、スペイン語、ポルトガル語はインターネットでも回答できます。

わからないことはナビダイヤル 0570-07-2020 か IP 電話 03-6636-9607 にお問い合わせください。(10月31日まで 毎日8時～21時 上記言語対応)

⑥国勢調査では、銀行口座、暗証番号を聞くことや、金銭を要求することはありません。

<中区役所総務課
TEL: 045-224-8116 >

2021年4月から保育所に子どもを預けたい方へ

保護者が働いていたり、病気などで、日中、子どもを家庭で育てられないとき、保護者が代わり保育する施設が保育所です。生後57日から小学校入学前までの子どもを預けることができますが、園によって預かる子どもの年齢は異なります。

▶ 2021年4月の入所申込

期間：10月12日(月)～11月9日(月)

※郵送受付・消印有効

すでに令和2年度(2020年度)の申込みをしても保育所に入所できていない場合は再度申込みが必要です。

<中区役所こども家庭支援課
TEL: 045-224-8172 >

流行前に、高齢者インフルエンザ 予防接種を受けましょう

高齢者や免疫力が低下している人はインフルエンザにかかると重症化することがあるので、予防接種を受けておくと安心です。市内の協力医療機関(*)で、2,300円で受けられます。

対象：65歳以上の人

期間：12月31日(木)まで

※在留カードなど年齢・氏名・住所を確認できるものを持参してください。

*市内の協力医療機関→英語・中国語で知りたい人は、なか国際交流ラウンジ(中区役所別館1階・TEL:045-210-0667)にお問い合わせください。

<中区役所福祉保健課
TEL: 045-224-8332 >

風しんの抗体検査及び予防接種の実施

風しんは感染力が強く、妊娠中の女性が感染すると、胎児にも感染し、「先天性風しん症候群」になる可能性があります。身近な人に感染させないためにも、対象の人はこの機会に接種を受けましょう。詳細は横浜市予防接種コールセンター(TEL:045-330-8561 FAX:045-664-7296)にお問い合わせください。

対象：1962年4月2日～1979年4月1日に生まれた男性

費用：無料

期限：2022年3月31日まで

<中区役所福祉保健課
TEL: 045-224-8332 >

読者の声

～最近お伺いした「声」をご紹介します～

日本語ができなくても、日本の学校に通っても良いのか心配でした。学校のことを色々知りたいです。

日本の行事を紹介した記事が印象に残っています。身近な情報が役に立ちます。



「読者の声」募集

中区多言語広報紙へのご意見や感想、掲載してほしい情報、その他日本での生活で最近気になっていることなど、みなさんの「声」をお寄せください。

①みなさんの「声」、②氏名、③連絡先(電話番号又はメールアドレス)、④出身国、を、中区役所区政推進課 na-koho@city.yokohama.jp までお送りください。



・いただいた内容は、要約して紙面に掲載させていただく場合があります。
・掲載時には、イニシャルと出身国を表示させていただきます。
・いただいた個人情報は当事業以外には使用しません。

<中区役所区政推進課
TEL: 045-224-8123 >

国際サービス員 区役所 2階 23 窓口
(中国語)8:45～15:45 (英語)10:00～17:00

区役所業務の案内、窓口での通訳、諸証明を取るときの申請書の記載サポートなどを行います。日本語での手続きが不安な方は、声をかけてください。

これがわからない!

Q&A



高校受検で、外国人向けの特別な募集はありますか？

⇒神奈川県は公立高校の入学選抜に、「在県外国人等特別募集(通称「在県枠」)」という特別募集制度があります。受検する年の2月1日現在、外国籍または、日本国籍を取得して3年以内で、日本での在留期間が通算3年以内の人が活用できます。

▶ 検査はどのような内容ですか？

学力検査と面接があります。学力検査は、国語、英語、数学の3科目で、問題文にはふりがながついています。



詳しくは、P1で紹介した「公立高校入学のためのガイドブック」で確認できます。興味のある人は、早めに情報収集して、学校の先生に相談してみましょう。

▶ 在県枠の募集がある学校はどこですか？

2021年度は、横浜市内では、県立鶴見総合高校(鶴見区)、県立横浜清陵高校(南区)、横浜市立みなと総合高校(中区)、横浜市立横浜商業高校(南区)で募集があります。

▶ このほかに特別な受検方法がありますか？

受検する年の2月1日現在、海外から移住してきて6年以内の人は、一般募集をする公立高校で、特別な受検方法を申請することができます。出願前に申請書を提出すれば、ふりがながついていた問題文、学力検査の時間の延長、わかりやすい言葉での面接、で受検ができます。





ちょっと出かけて
みませんか

紅葉に癒されよう ~中区の紅葉おすすめスポット~



① 山下公園通り

「日本の道百選」にも選ばれているこの通りでは、イチョウ並木が紅葉すると、一面黄色に染まります。隣にある山下公園の港の景色と併せて楽しむことができます。



暑い夏が終わり、過ごしやすい季節がやってきました。澄んでいく空気や虫の音、まちの風景などで秋を感じてみるのはいかがでしょうか。

中区のまちにある公園や通りでは、11月頃から紅葉が見ごろを迎えます。感染症対策をしっかりとしながら、季節の移り変わりを楽しみましょう。



② 日本大通り

通り沿いには、歴史を感じさせる建物やカフェなどが並び、イチョウが色づく一段と雰囲気のある通りになります。



③ 横浜公園

春のチューリップが有名な公園ですが、園内にある日本庭園のモミジが色付いた景色も味わいがあり人気です。



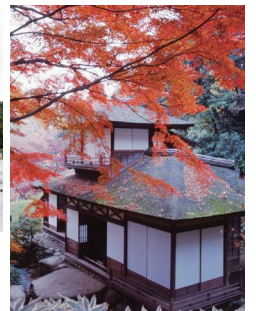
④ 根岸森林公園

競馬場跡地に作られたこの公園では、なだらかに広がる芝生の広場の周囲で、多くの樹木が秋色に染まります。



⑤ 三溪園

四季折々の自然が豊かな日本庭園では、赤や黄色の色鮮やかな紅葉と日本の建築物の美しい風景を楽しむことができます。
(有料、開園時間 9時~17時)



中区に暮らす外国人が発見 日本の暮らしと文化



「保護者」と学校の関わり



子どもたちが大きくなり、保育園や幼稚園、学校に行くようになると、外国人の親は、最初は不安になると思います。今回は、日本での保護者と学校の関わりについてお話します。

小学校にあがる前、子どもが保育園（主に共働きの保護者が利用しています）に入るようであれば、保護者が保育園の行事に出席することは、それほど多くないと思います。幼稚園に入るようであれば、子どもの成長を見守るために、保護者が出席する行事がたくさんあります。例えば、色々な参観日、運動会、遠足、お祭りなど。

小学校に入ると、幼稚園と比べ、学校との関わりは少なくなりますが、授業参観日や運動会等で保護者が学校に行く行事があります。

また、小学校からはPTA（保護者と教職員による社会教育団体）というものがあり、保護者と先生が協力して子どもたちの健全な成

長に努めます。PTAの組織は学校によって様々ですが、安全委員、環境委員、広報委員、学年委員などがあります。

このような活動は外国人の保護者には慣れない人もいるかもしれませんが、例えば、中国では、学校の行事は基本的に子どもたちのみの参加です。また、保護者は年2回、保護者会に参加するのみです。

日本での学校との関わりは大変だと感じることもあるかもしれませんが、私にとっては、子どもが成長するにつれ、幼稚園や小学校での可愛かった様子をよく思い出し、非常に貴重な思い出になっています。

(なか国際交流ラウンジ中国語スタッフ)

知ってほしい！ 日本の文化



季節の行事や、衣・食・住に関する日本の文化などを紹介します

“冬至”

冬至は、一年のうちで一番昼が短く夜が長くなる日です。日本では健康で元気に過ごすことを願って、この日にかぼちゃを食べたり、柚子を入れたお風呂に入ったりします。

かぼちゃは栄養豊富で長期保存がきくため、冬の貴重な野菜でした。また、柚子湯は、血行を促進し体を温めてくれます。

今年の冬至は12月21日です。季節の行事を楽しみながら、寒い冬を乗り越えていきましょう。



<多言語広報紙配布先を募集しています> 外国人の集まるお店や病院、機関など、ご希望があればお届けします。

次号は1月発行です